

再評価結果（平成22年度事業継続箇所）

担 当 課：道路局国道・防災課

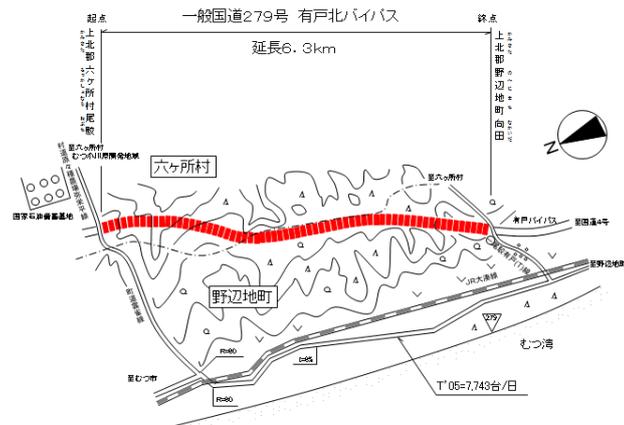
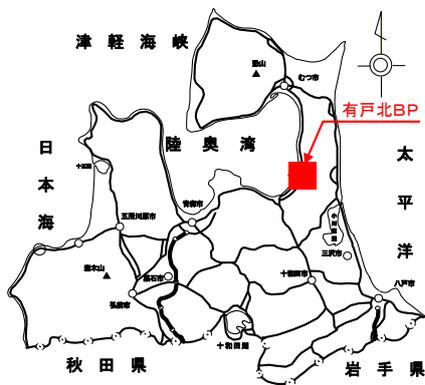
担当課長名：深澤 淳志

| | | | | | |
|---|--------------------------------------|--|--|-------------|-----|
| 事業名 | 地域高規格道路 下北半島縦貫道路 一般国道279号 有戸北バイパス | 事業区分 | 一般国道 | 事業主体 | 青森県 |
| 起終点 | 自：青森県上北郡六ヶ所村尾駁 至：青森県上北郡野辺地町向田 | 延長 | 6.3km | | |
| 事業概要 下北半島縦貫道路は、下北地方生活圏の中心都市むつ市と東北縦貫自動車道八戸線（はちのへ）を結ぶ延長約60kmの地域高規格道路である。有戸北バイパスは、JR大湊線平面踏切、急勾配及び線形不良といった現道隘路の解消と下北地方生活圏の連携強化を図るとともに、国家エネルギー施策を進めているむつ小川原開発地域へのアクセス強化を目的とした延長6.3kmのバイパス事業である。 | | | | | |
| H12年度事業化 | 都市計画決定なし | H14年度用地着手 | H17年度工事着手 | | |
| 全体事業費 | 約120億円 | 事業進捗率 | 64% | 供用済延長 | 0km |
| 計画交通量 | 8,900台/日 | | | | |
| 費用対効果分析結果 | B/C (事業全体) : 1.3 (残事業) : 3.6 | 総費用 (残事業)/(事業全体) : 45/123億円 事業費 : 39/117億円 維持管理費 : 5.9/5.9億円 | 総便益 (残事業)/(事業全体) : 164/164億円 走行時間短縮便益 : 101/101億円 走行費用減少便益 : 39/39億円 交通事故減少便益 : 25/25億円 | 基準年 : 平成21年 | |
| 感度分析の結果 残事業について感度分析を実施 【残事業】 交通量変動 : B/C=4.2(交通量 +10%) B/C=3.1(交通量 -10%) 事業費変動 : B/C=3.3(事業費 +10%) B/C=4.0(事業費 -10%) 事業期間変動 : B/C=3.5(事業期間 +20%) B/C=3.8(事業期間 -20%) | | | | | |
| 事業の効果等 ・国土・地域ネットワークの構築（六ヶ所村から野辺地町へのアクセス向上） ・個性ある地域の形成（大規模国家プロジェクトであるむつ小川原開発の支援） ・災害への備え（緊急輸送道路の機能強化） | | | | | |
| 関係する地方公共団体等の意見 有戸北バイパスは、国道279号の現道隘路の解消や災害時の代替機能の確保等を図るとともに、地域間交流・連携の活性化に大きく寄与することが期待されており、むつ市長をはじめとする沿線市町村の首長等で構成される下北半島振興促進連絡協議会より、下北半島縦貫道路の整備促進について要望を受けている。 また、地元で働く女性により構成されている「下北未来塾」が生活者の視点から下北半島縦貫道路が下北地域の生活に必要な不可欠の社会資本であることを地域の声（熱意）として強く訴えている。 | | | | | |
| 事業評価監視委員会等の意見 青森県公共事業再評価審議委員会から、「対応方針（案）どおり継続が妥当と認められる」との意見が提出された。 知事の意見：上記公共事業評価審議委員会の意見を踏まえ「事業の継続が妥当」と判断した。 | | | | | |
| 事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等 この事業の目的が失われるような道路交通状況の変化及び関連プロジェクト等の変更はない。 | | | | | |
| 事業の進捗状況、残事業の内容等 【執行済み額】事業費：77億円（進捗率64%） うち用地費：4億円（進捗率100%） | | | | | |
| 事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等 事業進捗に係る問題はない。早期の供用を目指す。 | | | | | |
| 施設の構造や工法の変更等 再生路盤材などの建設副産物の有効活用を積極的に進め、コスト縮減を図っている。 | | | | | |
| 対応方針 | 事業継続 | | | | |

対応方針決定の理由

以上の事業の効果及びコスト縮減等の内容、青森県公共事業再評価審議委員会における審議、知事等の意見を踏まえると事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。